

科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成24年5月25日現在

機関番号：12601

研究種目：基盤研究（B）

研究期間：2009～2011

課題番号：21330082

研究課題名（和文） 戦後国際金融秩序の形成と各国経済

研究課題名（英文） The Origin of International Monetary Order after WW2

研究代表者

伊藤 正直（ITOH MASANA0）

東京大学・大学院経済学研究科・教授

研究者番号：70107499

研究成果の概要（和文）：IMF、WB、BISなどの国際機関や各国公文書館所蔵の政府一次資料を新たに発掘・整理して、これまで国際金融論、金融論的視角から検討されてきたブレトンウッズ体制の形成史・機能論を、国際金融・資本市場史という視点から改めて捉え直し、マネー・マーケット、キャピタル・マーケットの動きと関連させつつ、各国国民経済の戦後発展を明らかにする課題を、実証的かつ理論的に達成した。この成果により、現在緊急の課題となっている国際金融システムの安定化についても一定の政策提言を行うことも可能となっている。

研究成果の概要（英文）：Our new analysis of the Bretton Woods System at the adjustable-peg era gave a new aspects and outcome on its origin and its working mechanism. We tried it by using the original documents and records of IMF, WB, BIS and National Archives of U.S.A and U.K. in cooperation with their staff. It is the first attempt all over the world. As a result, we are able to analyze the movement of the international money and capital market not only theoretically but historically and institutionally.

交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合計
2009年度	6,700,000	2,010,000	8,710,000
2010年度	5,300,000	1,590,000	6,890,000
2011年度	3,200,000	960,000	4,160,000
年度			
年度			
総計	15,200,000	4,560,000	19,760,000

研究分野：社会科学

科研費の分科・細目：経済学・経済史

キーワード：国際金融、金融政策、金融市場、資本市場、IMF、ブレトンウッズ体制、国際政策協調、アーカイブ

1. 研究開始当初の背景

本研究は、第2次大戦終結前夜から1960年代までの時期を対象として、ブレトンウッズ体制といわれる戦後国際金融秩序が、どのようにして形成され、また、それがどのように機能したのかを、戦後の主要資本主義諸国の動態との関連から明らかにすることを課題とした。研究開始当初、この分野の研究は、

主として国際金融論、世界経済論の側からなされ、通貨制度史が主流であったため、国際金融・資本市場にまで踏み込んで解明しようとした研究はほとんどなかった。また、この分野の研究の担い手が、おもに国際金融論の研究者であったため、国際市場と国内経済との相互の関係を問う視角も弱かった。国際的にみても、最近ようやく Youssef Cassis,

Capitals of Capital : A History of International Financial Center, Cambridge, 2006 や Randal Michie, *The British Government and the City of London in the Twentieth Century*, Cambridge, 2006 などが登場したものの、これらの具体的検討は今後の課題として残されている。

2. 研究の目的

本研究では、上述のように、これまで国際金融論、金融論的視角から検討されてきたブレトンウッズ体制の形成史、機能論を、国際金融・資本市場という視点から、改めて捉え直し、マネー・マーケット、キャピタル・マーケットの動きと各国国民経済の戦後発展との関連を重視するなかから、ブレトンウッズ体制に内在した矛盾を明らかにすることを研究の目的とした。そして、このことを通じて、上述の欧米における国際資本市場史の研究と理論的・実証的連携を図り、国際金融秩序研究の研究に新しい視角と方法を提供することも課題とした。

3. 研究の方法

本研究では、まず第1に、ケインズとホワイトによって代表させられてきたIMF創立史の固定的なイメージを、IMF協定に参加した各国レベルの構想や利害までに遡って掘り下げることにより、多角的に捉え直すことを目指し、これまで暗黙の前提とされてきたアメリカのIMF支配、「ドルの世界支配」の構図を相対化することを目指す。その際、戦後国際通貨制度の構築・再構築に携わった人々の経済思想を、国際金融理論の面から究明する作業は不可欠であって、これまで未発掘であったIMFや各国Archivesに所在する第一次資料の系統的発掘と検討から、この課題を達成するという方法をとることとした。

第2に、1950～60年代の国際金融・資本市場の構造と動態について、できるかぎり具体的なデータ、精密なデータに基づいた分析を行う。そのため、最初に、1930年代末に戦争により金融「鎖国」に移行した国々の国際市場への復帰を、日本の戦前外債の処理をケーススタディーとして分析する。つぎに、IMF体制のもとで、実際にどのような形で貿易決済が行われ、貿易決済のための貿易信用が供給されたのかを、一次史料に即して解明する。

こうした方法に沿って、平成21年度から23年度の3年間、毎年、IMFアーカイブ、WBアーカイブ、NARA、PRO、フランス公文書館、カナダ公文書館等の海外資料調査および蒐集に努め、これらの機関でえられた一

次資料の系統的分析を行った。

4. 研究成果

当初想定したIMF、WB、BISなど国際機関の一次資料、米、英、仏、独、伊、加の政府関係の一次資料の蒐集を、ほぼ予定通りに行うことができ、これまで公刊ベースでしか理解されていなかった政策決定過程の内部過程を全体として解明することができた。

このような形で、系統的に蒐集した一次資料に基づく研究は、これまで世界的に見ても行われておらず、国際金融機関史、国際金融システム史としての本研究の意義は、国際的にも高く評価されることが期待される。また、こうした一次資料による分析の結果、当初の狙いとした「これまで国際金融論、金融論的視角から検討されてきたブレトンウッズ体制の形成史・機能論を、国際金融・資本市場史という視点から改めて捉え直し、マネー・マーケット、キャピタル・マーケットの動きと各国国民経済の戦後発展との関連を重視する」という課題を、実証的かつ理論的にほぼ達成する見通しを得ることができた。この成果を、平成24年3月、平成24年8月に行われる国際学会、平成24年11月に国内学会で発表し、さらに日英の著書として刊行することを計画している。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計30件)

① 伊藤正直「戦後ハイパー・インフレと中央銀行」査読有、2012年、日本銀行『金融研究』第31巻1号、pp.181-226

② 矢後和彦「世界銀行の対仏借款——ブレトンウッズ秩序におけるフランス——」査読無、2012年、『早稲田商学』432号(掲載決定)

③ 石坂綾子「IMF14条国時代のドイツ(1952-1961年)——ヨーロッパの黒字国から資本輸出国へ」査読有、2012年、『歴史と経済』217号(掲載決定)

④ 浅井良夫「戦後為替管理の成立」査読無、成城大学『経済研究』第195号、2012年、pp.93-140

⑤ 浅井良夫「開発の50年代から成長の60

年代へ」査読有、2011年、『国立歴史民俗博物館研究報告』第171集、pp.7-24

⑥ 岸田真「日露戦後期の財政・金融政策と英国市場における日本の対外信用」査読無、2012年、日本大学経済学部『経済集志』第81巻4号、pp.139-155

⑦ 菅原歩「カリフォルニア銀行業史の概観：1848-1998年」査読無、2011年、『社会文化研究所紀要』67巻、pp.47-70

⑧ Ayako ISHIZAKA, Public Capital Exports from West Germany, -the Contribution to the World Bank during the 1950s to early 1960s-, 査読無、2011年、『愛知淑徳大学論集-ビジネス学部・ビジネス研究科篇-』第7号、pp.19-30.

⑨ 野下保利「世界金融危機と新古典派資本理論」査読無、2011年、国士舘大学政経学会『政経論叢』通号158号、pp.37-69

⑩ 浅井良夫「360円レートの謎」査読無、2010年、成城大学『経済研究』第192号、pp.1-44

⑪ 浅井良夫「戦後改革と占領期の日本社会」査読有、2010年、国立歴史民俗博物館編『占領下の民衆生活』東京堂出版、2010年、pp.9-51

⑫ 浅井良夫「高度成長と財政金融」査読無、2010年、石井寛治・原朗・武田晴人編『日本経済史』5、東京大学出版会、pp.135-197

⑬ つる見誠良「試論『バジヨットの原則』再考-現代金融危機と日本銀行」査読無、2010年、法政大学『経済志林』第77巻第3号、pp.149-172

⑭ 野下保利, "Monetary Equilibrium under Financial Capitalism (1)(2)," 査読無、2010年、国士舘大学政経学会『政経論叢』第153号、pp.29-48、第154号、pp.61-83.

⑮ 伊藤正直「1990年代日本の金融システム危機」査読無、2009年、復旦大学日本センター『中国経済のモデルチェンジと中日経済関係の新しい課題』pp.48-63

⑯ 伊藤正直「金融危機と国際金融システム

の不安定」査読無、2009年、『生活経済政策』567号、生活経済政策研究所、pp.22-25

⑰ 伊藤正直「グローバル化と金融危機」査読無、2009年、『民主主義教育21 現代資本主義は変わったか』Vol.3、同時代社、pp.30-44

[学会発表] (計8件)

① Kazuhiko YAGO, "Crisis Management in the International Monetary and Financial System: OECD Working Party 3 in the 1970s" (イギリス経済史学会年次大会 The Economic History Society Annual Conference、口頭セッション報告、オックスフォード大学、2012年3月31日)

② 岸田真「1920年代における日本の対外信用-金本位停止期における公債政策と国際金融市場のリスク・プレミアム」(社会経済史学会第80回全国大会、2011年5月5日)

③ 岸田真「国際金融・資本市場と日本の外資導入論」(政治経済学・経済史学会 2010年度秋季学術大会、2010年11月13日)

④ 伊藤カンナ「イタリアの戦後復興と通貨安定化」(日本金融学会中部部会、2010年9月4日)

⑤ Kazuhiko YAGO, "Banque du Japon dans le système monétaire international" (フランス銀行シンポジウム Colloque "Les banques centrales à l'échelle du monde", 招待講演、2009年11月27日)

[図書] (計7件)

① 伊藤正直他1名、日本経済評論社、2011年、『グローバル化・金融危機・地域再生』pp.270

② 伊藤正直、旬報社、2010年、『なぜ金融危機はくり返すのか-国際比較と歴史比較からの検討』pp.154

③ 吉國眞一・矢後和彦監訳、蒼天社出版 2010年、『サウンドマネー -BISとIMFを築いた男、ペール・ヤコブソン-』([原著] Erin E. Jacobsson, A Life for Sound Money, Per Jacobsson, His Biography, Oxford 1979) pp.360

④ 矢後和彦、蒼天社出版、2010年、『国際

決済銀行の20世紀』pp.289+60

- ⑤ 伊藤正直、名古屋大学出版会、2009年、
『戦後日本の対外金融－360円レートの成立
と終焉－』pp.416

6. 研究組織

(1) 研究代表者

伊藤 正直 (ITOHI Masanao)
東京大学・大学院経済学研究科・教授
研究者番号：70107499

(2) 研究分担者

浅井 良夫 (ASAI Yoshio)
成城大学・経済学部・教授
研究者番号：40101620

矢後 和彦 (YAGO Kazuhiko)
早稲田大学・商学学術院・教授
研究者番号：30242134

(3) 連携研究者

野下 保利 (NOSHITA Yasutoshi)
国士舘大学・政経学部・教授
研究者番号：10150393

靄見 誠良 (TSURUMI Masayoshi)
法政大学・経済学部・教授
研究者番号：10061227

岸田 真 (KISHIDA Makoto)
日本大学・経済学部・講師
研究者番号：40317277

石坂 綾子 (ISHIZAKA Ayako)
愛知淑徳大学・ビジネス学部・准教授
研究者番号：40329834

伊藤 カンナ (ITOHI Kanna)
明治学院大学・経済学部・講師
研究者番号：30334999

菅原 歩 (SUGAWARA Ayumu)
東北大学・経済学部・准教授
研究者番号：10374886

須藤 功 (SUTO Isao)
明治大学・政治経済学部・教授
研究者番号：90179284

(4) 研究協力者

西川 輝 (NISHIKAWA Teru)
横浜国立大学・経済学部・准教授
研究者番号：30622633